

## 28CG-am07

インターネットによる登録販売者間情報交換・研修システムの構築

○森川 諭<sup>1</sup>, 三木 晶子<sup>2</sup>, 佐藤 宏樹<sup>2</sup>, 堀 里子<sup>2,3</sup>, 澤田 康文<sup>2</sup>(<sup>1</sup>湧永製薬, <sup>2</sup>東大院薬, <sup>3</sup>東大院情報学環)

【背景・目的】薬事法施行規則の改正に伴い、平成 21 年 6 月より一般用医薬品のうち第 2 類および第 3 類の販売に、新しく登録販売者が認められることになった。しかし、第 2 類および第 3 類医薬品の中には、医薬品、食品・嗜好品との相互作用の面から販売時のモニタリングが必要な医薬品は多数存在する。また、消費者の状態を見極め医療機関への受診勧告も必要となる。したがって、登録販売者への継続した教育が必須である。そこで本研究では、登録販売者のためのインターネットによる情報交換・研修システム (Internet-based registered drug seller's information sharing system: i-REDSISS、アイレドシス) を新たに構築することを目的とした。【方法】これまでに我々は、インターネットによる薬剤師間情報交換・研修システム (i-PHISS、アイフィス) を構築、運用してきた。これらの経験をもとに、実務上で経験した様々なヒヤリハット事例、医薬品にまつわる相談事例などを登録販売者からの投稿により収集し、更にこれらを研修用の教育コンテンツとして解析・加工し、提供するためのウェブサイトを構築した。

【結果・考察】本サイトは、「ヒヤリ・ハットコーナー」「よろず相談コーナー」「クイズコーナー」から成る。「ヒヤリ・ハットコーナー」に投稿された経験事例はデータベースに蓄積し、全登録者がウェブ上で閲覧・情報共有可能とした。「よろず相談コーナー」では投稿されてきた医薬品に関する様々な疑問や質問をとりあげ、「クイズコーナー」では、医薬品の適正な販売にかかわる問題点を Q&A 形式によって解説し、定期的に配信を行う。本システムの構築により、資格取得後に医薬品情報に関する研修の場が少ない登録販売者に対して具体的な事例に基づいた研修教材を定期的に提供することが可能になった。